

# 5月・6月の管理ポイント

平成23年4月25日



ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第111号

5月、6月は梅雨から夏に向けての準備として、グリーン  
の根を伸ばしておく時期です。4月は低温が続き、芝の生育  
にも出遅れ感がある中、土壌の透水性、通気性を高めて、  
育ちやすい環境を整えていきましょう。

## レボ (REVO)

5月の生育期、6月の排水対策に...

5月は芝生の根をしっかり伸ばす大切な時期です!!  
レボにより表層を乾き気味、土壌中は気相をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。  
土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。  
散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして  
一度に十分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。  
6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。  
使用量：レボ 2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml~1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回

## 光合成細菌、サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

梅雨前の更新作業時に光合成細菌とサッチ・リムーバーを組み合わせることによって、サッチを効率よく分解  
し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。  
光合成細菌 使用量：1~2cc 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回  
サッチ・リムーバー 使用量：1~2g/m<sup>2</sup> 0.5ℓ/m<sup>2</sup>散布 使用回数：月1~2回 (光合成細菌の取り扱いが研究会制です)

## コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には...

梅雨時期は日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。  
コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を潤滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。  
使用量：ベント1~2g/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 コウライ3~4g/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>散布

## スティンガーFL、ショットガン

害虫発生にあわせて...

GW以降のグリーンには、タマナヤガ幼虫、シバツトガ幼虫の連続発生が予想されます。そういった場合は新  
規化合物による長期残効型殺虫剤スティンガーフロアブル、また比較的食害が軽微である場合はショットガン  
を使用し、状況に応じて使い分けましょう。  
使用量：ショットガン 1000倍 0.3ℓ/m<sup>2</sup>散布 スティンガーFL 4000倍 0.2ℓ/m<sup>2</sup>散布

## グリーンメカ、マリンパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のエサとして...

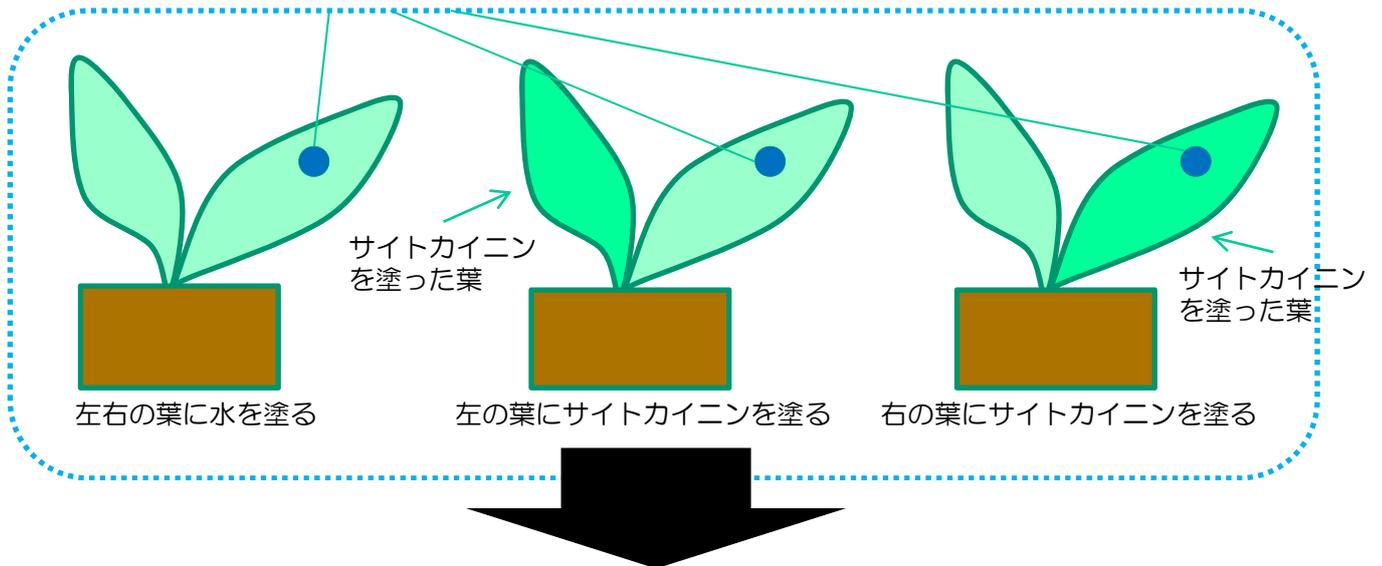
梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。  
黒糖、各種ミネラルの豊富なグリーンメカで不足しがちな糖類を補ってあげましょう。  
光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いドブ臭い土壌)を改善し好  
気性の有用菌を定着させましょう。  
使用量：グリーンメカ 5~10ml/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>以上 マリンパワー 2~4ml/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>以上

# 植物体内の栄養分の移動と植物ホルモンの関係

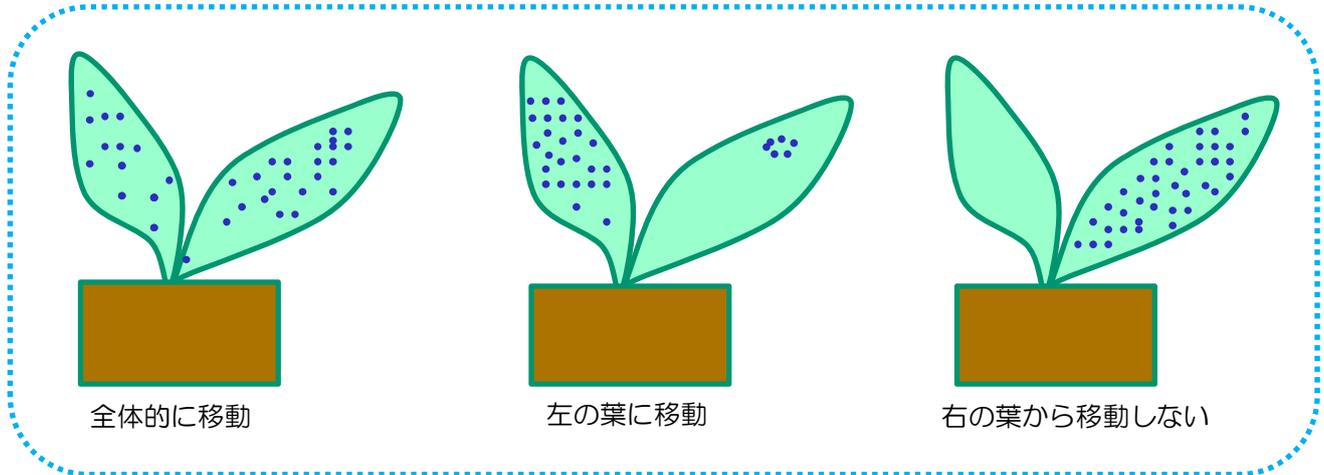
植物は必要なところに糖やアミノ酸などの栄養分を転流させるといわれています。例えば種子形成時には栄養分は、種子に集められますが、発芽後は、種子に蓄えられていた栄養分は、成長器官へと移動します。また、光合成をしている器官でつくられた栄養分は、成長中の器官へと移動されます。この栄養分の移動に、**サイトカイニン**が関与しているといわれています。

## 葉にサイトカイニンを塗った時のアミノ酸の移動

放射性アミノ酸(植物を感光させると植物体内でアミノ酸が移動した様子がわかる)



しばらく栽培後、写真フィルムに密着させ感光させる(放射性アミノ酸の移動が観察できる)



**葉に塗ったアミノ酸は、サイトカイニンを塗った葉に集まる**